

吉高の大桜について

現状

- ・ここ何年か開花の樹勢が弱まっている。
- ・令和元年9月の台風15号で大きな枝が折れ、樹形が乱れている。
- ・樹勢が弱まっているため、10月に大半が落葉してしまう。

→日本樹木医会 千葉県支部および特定非営利法人樹の命を守る会に相談し、

簡易樹勢診断を実施した後、10月7日に詳細診断を行った。

診断内容

- ・音響波診断
- ・土壌断面調査
- ・外観診断

結果

・音響波診断によれば、幹部分で空洞化と推定される反応が見られた。枝自体には問題がないことから早急に判断できないが、一部空洞化が進行していると考えられる。

- ・土壌診断の結果、土壌の生育条件は満たしているため、樹勢の弱まりは他の環境要因が原因となる。土壌は今の状態を維持したほうが良い。
- ・外観診断では、総合診断結果はⅢ：不良となる。大枝や枝先の枯損が確認される。コフキタケやウメノキゴケなどの木材腐朽菌が発生していることから、新陳代謝が不活発であると判断される。また、北側地中において中径根は見られたが、細根が未発達である点も気になる。

今後の対策

【地上部の対策】

- ① 枯損した枝の除去および切断面の殺菌処理・癒合促進
- ② 頬杖支柱の補修（据え直し）

【樹勢回復策】

- ③ 施肥（肥料杭や緩効性肥料等）
- ④ 土壌改良（土壌の化学性、根系分布の調査等が必要）

【その他】

- ⑤ 継続的な観察が必要となる。市では、所有者や保存団体と連携しながら、吉高の大桜の保護にむけて、継続した支援を行っていく。